

「パックス・モンゴリカ」時代の文化交流史 ～環ユーラシア交易網がもたらしたもの～

第16期社会工学研究会
アジアダイナミズム班

学部生 : 藤川・三浦・矢野
大学院生 : 菅沼、佐藤、杉、阿達、五十嵐
 中里、中村
指導教員 : 金美徳、越田辰宏

Agenda

1. 振り返り（2017年～2024年 論文のテーマ）
2. 研究目的・方法
3. 研究対象
4. 2025年度のテーマ
5. フィールドワーク計画
6. 参考文献
7. 年間スケジュール

1. 振り返り（2017年～2024年 論文のテーマ）

モンゴル帝国史の8年間の研究（今年で9年目！）

年度	タイトル	頁数
2017	モンゴル帝国のユーラシア興隆史	107
2018	モンゴル帝国の興隆と衰退	244
2019	モンゴル帝国と朝鮮半島	84
2020	パンデミックのユーラシア史とポストコロナ	118
2021	倭寇とモンゴル帝国史～海洋の渡海民と大陸の遊牧民～	106
2022	華人華僑とモンゴル帝国史	81
2023	モンゴル帝国の衰退から見る宗教と統治	89
2024	モンゴル帝国の遺産	229



2017年度～2021年度の論文が書籍として出版されました(2023/3/30発売 全240頁)

2. 研究目的・方法

✓ アジア班が目指す論文は、歴史の視点から「**現代的意義**」を見出す

✓ 「**文献研究とフィールドワーク**」を中心に研究活動を行う

✓ フィールドワークは「**博物館**」訪問や「**専門研究者**」ヒアリングを行う

3. 研究対象：「パックス・モンゴリカ」とユーラシア交易路

パックス・モンゴリカとは

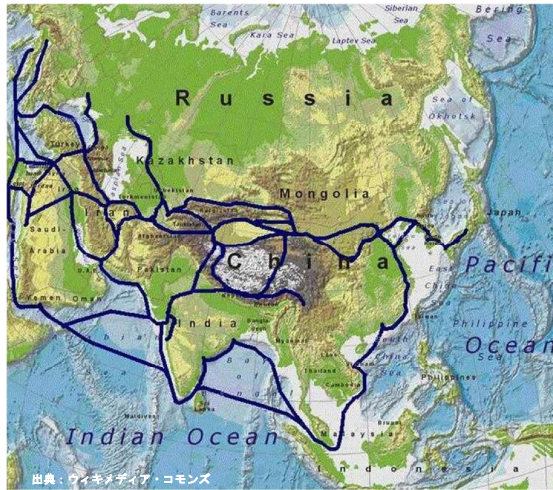
13～14世紀にかけてユーラシア大陸を支配したモンゴル帝国の覇権による安定した時代を、パックス・ロマーナ（ローマの平和：1～2世紀）になぞらえた言葉である。（パックス（PAX）はラテン語で「平和」の意）

本論文では「モンゴル帝国の支配による広域にわたる政治的安定によって、分断されていた地域が繋がり、人々が自由に往来できるようになり、文化交流が栄えた時代」という主旨で使用する。

Cf.

パックス・ブリタリカ（19世紀の大英帝国最盛期）

パックス・アメリカーナ（20世紀のアメリカ覇権）



4. 2025年度の研究テーマ

問題意識

- 13～14世紀にモンゴル帝国の統治が実現した広域支配圏とその安定（パックス・モンゴリカ）は、分断された地域を結びつけ、異文化の交流を活発化させた。
- 「パックス・モンゴリカ」による文化交流のダイナミズムを、環ユーラシア交易網が実現した物産・技術・文化の相互交流の探求によってあぶり出したい。
- 現在、自国第一主義、戦争・紛争、宗教対立など、世界で進む分断化の動きに対し、モンゴル帝国の歴史から得られる教訓は何か。

研究課題

- 「パックス・モンゴリカ」による広域交易、経済圏を実現したモンゴル帝国の統治機能
- 3つの交易路（ステップロード<草原の道>、シルクロード<オアシスの道>、マリナーロード<海の道>）の果たした役割
- 交易された物産、伝播した技術の歴史的意義
- モンゴル帝国が果たした文化圏同士の文化交渉

4. 2025年度の各自研究テーマ【計画】

名前（漢字）	テーマ	問題意識	研究を通して明らかにしたいこと
三浦 雄太	モンゴル相模「ブフ」と日本相模の文化的・歴史的關係性の考察	モンゴル相模の文化交流から見たユーラシアへの広がり。モンゴル相模と日本相模の文化的・歴史的關係性について研究する。	モンゴル帝国における国技の価値。ナタム祭（建国記念日）との密接な関係。モンゴルの遊牧民が生き抜くための「力・知恵・技術」の象徴としてブフ、競馬、弓術を競い合う。中でもブフはナタム祭の主役とされ三競技の中でも最も注目される。
藤川 竜輔	モンゴルの伝統音楽の起源についての考察	1.ホーミーや馬頭琴などの楽器は、どのように遊牧民の自然観・生活・宗教観・精神文化と結びつきながら発展してきたのか。 2.音楽文化は現代社会においてどのように再解釈されているか	1.なぜ伝統音楽の歴史が途絶えてしまったのか 2.なぜ衰退した国であったのに伝統楽器や歌唱法が受け継がれていて現代でも受け入れられ人気が高いのか
矢野 雅大	モンゴルの食文化についての考察	1.モンゴル帝国繁栄の歴史において食の役割とは 2.モンゴル帝国の食事のなかで文化に昇華した物の現代に与える影響	1.モンゴル帝国を支えた食文化の全体像 2.帝国を支えた食文化は現代でも生きているのか、またどのように活かせるのか
杉 由紀	モンゴル帝国の統治体制のルーツを探る	モンゴル帝国を「帝国たらしめた」要因の一つに、ウイグルの制度や文字の導入、ウイグル人の登用がある。なぜウイグルの制度を導入したのか	1.なぜモンゴル帝国は、ウイグル人の制度・文字を導入したのか 2.ウイグル帝国、ウイグル人の制度が優れていた理由はなにか 3.ウイグルの制度は、ソグド人やソグド商人から取り入れられた。ソグド人の制度や慣習の特徴。優れていた点は何か
阿達 敏洋	モンゴル帝国における紙・印刷・書物の歴史的意義とその波及効果	1.モンゴル帝国において紙、印刷、書物は情報伝達、経済、文化政策においてどのような役割があり、後世にどんな影響を与えたのか 2.製紙技術がどうやって他国から取り入れ、印刷技術はどこから入り、言語はどうしたのか。	1.行政制度を統合的に管理するために紙や印刷をどう進めていったのか 2.モンゴル帝国は他国（南宋、西蔵）からどうやって印刷技術を吸収したのか 3.印刷物ではどうやって漢文、ウイグル語等多言語印刷政策を進めたのか

4. 2025年度の各自研究テーマ【計画】

名前（漢字）	テーマ	問題意識	研究を通して明らかにしたいこと
佐藤 力	家系図から見るモンゴル帝国血統の特徴と現代に繋がる遺産の考察	1.男系男子のみが正当な支配者とする「チンギス統原理」が生まれた背景は何か？ 2.モンゴルにおいて家系図は何故重要なのか？	1.「チンギス統原理」は、どのようにして帝国支配の拡大に組み込まれていったのか？ 2.チンギス・ハンの家系の重要性、血統はどのように尊重され受け継がれて来たのか？ 3.男系血統を守ることが、どのように帝国の繁栄に寄与したのか？ 4.血統の純潔性を保つために、どのような工夫がされたのか？
菅沼 孝陽	モンゴル帝国と琉球が生み出したユーラシア大交易圏の成り立ちと実態 ～パックス・モンゴリカがもたらした14～16世紀東アジアの海洋交易～	1.モンゴル帝国が実現した広域交易圏のうち、海洋交易には、琉球が大きな役割を果たしたのではないのか。 2.琉球を媒介したアジア・ユーラシア海上交易は、各国の文化・経済に現代にもつながる大きな影響を与えているのではないのか。	1.「パックス・モンゴリカ」がもたらした14～16世紀のアジア・ユーラシア海上交易路の実態 2.アジア・ユーラシア海上交易における琉球の果たした役割 3.琉球が媒介した海上交易で扱われた物品、文化の高通経路と意義 4.中国大陸の王朝交代と琉球の関係と現代に与えた影響
中里 健吾	パックス・モンゴリカにおけるモンゴル帝国の広域統治と多民族支配の仕組みから、現代の組織文化の在り方を学ぶ	1.モンゴル帝国は13世紀において、東は朝鮮半島から西は東ヨーロッパに至る広大な領域を支配し、比較的平和なパックス・モンゴリカと呼ばれる時代を築いた。 2.現代社会は、通信手段、交通手段が高度に発達し、文化交流の障害が少なくなっているにも関わらず、様々な分断、戦争が多く発生している。 3.企業経営の観点からは、DE&Iの課題、国を跨るグループ経営上の課題などが多く存在している。 4.モンゴル帝国から現代社会の課題を解決する示唆を得ることができないか。	1.ヤサ（共通法）による秩序維持、一体性の確保 →多くの民族を抱えるモンゴル帝国で、どのようにして皆が納得するヤサを定め浸透させたのか 2.ヤム制度-高速通信による中央、地方連携 →どのようにして必要な情報を適時に各地に展開し、また吸い上げたのか それを支えた仕組みの背景を探る 3.分権性、各地の自律性と反乱防止 →各ハーン国に一定の自立を持たせつつ、反乱を防止したのか。分散型パナソニックと中央集権のバランスの取り方を考察する。

4. 2025年度の各自研究テーマ【計画】

名前(漢字)	テーマ	問題意識	研究を通して明らかにしたいこと
中村 淳	ユーラシア大陸・モンゴル帝国・シルクロードが育んだアジアの 茶文化 とその歴史についての考察	1.モンゴル遊牧民の乳茶文化と中国茶文化の融合 2.モンゴル帝国とグローバル化の始まりとしての茶文化	1.敦煌やサマルカンドなどの都市で茶がどのように流通・消費されたか。 2.モンゴル帝国がもたらした「グローバル化」の中で茶文化が果たした役割。
五十嵐 郁一	パックス・モンゴリカの成立に影響を与えた、モンゴル民族を起点とした 精神文化 ダイナミズムの検証	1.現代のユーラシアにおいては、ナショナリズムや宗教対立などによる分断と不安定化が進んでいる。そうした状況の中で、人類が共に生きるための精神的な拠り所とは何かが改めて問われている。 2.一方、13世紀のユーラシアでは、モンゴル帝国が多民族・多宗教を包含し、秩序と交易を維持した「パックス・モンゴリカ」が一時的に実現された。 3.この時期の安定を支えた背景には、モンゴル民族の精神文化と、それがもたらしたダイナミズムがあったのではないかとこの仮説を立てる。 4.では、その精神文化の構造と特質とは何か？ また、現代の我々にとつてどのような意味や示唆をもつのか？	1.精神文化の構造分析： モンゴル帝国の支配民族であるモンゴル人に見られる精神文化の構成要素（宗教観・世界観・倫理観）を整理・分析する。 2.ダイナミズムの具体的検証： その精神文化が、他民族・他宗教とどのように作用し合い、「パックス・モンゴリカ」の形成につながったかを検証する。 3.現代への応用的示唆： モンゴル帝国の精神文化ダイナミズムから、現代のグローバル社会が学ぶべき精神的原理や共生のあり方を考察する。

9

5. フィールドワーク計画

天理大学附属天理参考館

- 参加者 : 金先生、菅沼、佐藤
- 質問内容：
・チンギス・ハンの家系図伝来について
- 時期：6月1日

国立博物館

- 参加者 : アジアダイナミズム班ゼミ生
- 調査内容：
・各テーマに応じた資料調査
- 時期：7月19日

研究者インタビュー（候補）



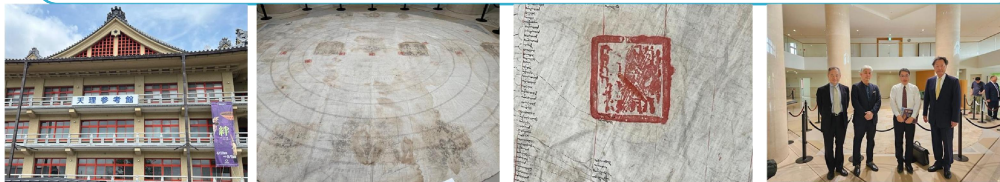
- リーダー：菅沼、サブリーダー：佐藤 ※サポート役：越田先生
- 候補
 - ・中村篤志（なかむらあつし）：山形大学人文社会学部教授。研究テーマ『清朝のモンゴル統治政策』『モンゴル遊牧社会の歴史の変容』
 - ・宮紀子（みやのりこ）：京都大学人文科学研究所助教。研究テーマ『モンゴル時代の政治と文化』
 - ・ゾーハン・ゲレルト : 早稲田大学モンゴル研究所研究員、和光大学総合文化研究所特別研究員
 - ・上田信（うえだまこと）：立教大学文学部特別専任教授。中国の歴史9『海と帝国 明清時代』
 - ・時期：8～11月

10

フィールドワーク 天理大学附属天理参考館

天理大学附属天理参考館訪問 世界最大級の家系図 見学/意見交換

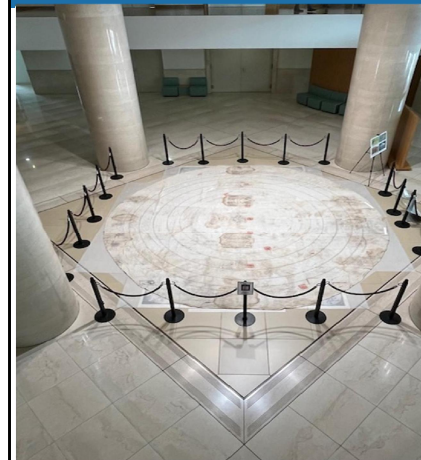
- 面談日時 : 6月1日(日) 13:00～15:00
- 面談者 : 先方1名 天理大学附属天理参考館 学芸員 梅谷昭範氏(海外民族室)
当方3名 大学院生(菅沼、佐藤)、指導教員(金)
- 内容 : 天理大学創立100周年記念第98回企画展-絆-ヒトとヒトをつなぐモノ-2025年4月16日～6月2日に展示されている**世界最大級の家系図(チンギス・ハンの子孫であるチエチエン・ハーン・ショロイから始まり14世代に渡る)**の見学及び梅谷学芸員からの本展示内容の解説を頂く
 - ①本家系図が日本、そして天理大学に持ち込まれた歴史的背景は？
 - ②本家系図の特徴は？
 - ③モンゴル帝国にとつての家系図とは？
 - ④モンゴル独立後、ソ連統制下での家系図の位置付けは？



11

フィールドワーク 天理大学附属天理参考館

世界最大級の家系図－直径555cm 記されているのは14世代11,966人、全て男系男子



- 【本家系図について】
- モンゴル帝国初代皇帝チンギス・ハンの男系子孫である**チエチエン・ハーン・ショロイ**(1577-1655)を始祖とする家系図
- ショロイはモンゴル南東部のハルハ部を治めたハーンの一人
- ショロイ以降の後継者はいずれもチエチエン・ハーンを名乗った
- 【家系図の特徴】
- 家系図の中心にはショロイの名前が記されており、そこから**同心円状に赤い線が世代毎に区切られている**
- モンゴル文字+満洲文字**で記載されている
- 文字が染みしていないことから、インクには膠(にかわ)を使用しているのではないかと推察
- 朱印は1カ所を除いて布のつなぎ目に割印する形で押されており、**偽造防止を目的**にしたものではないかと推察

12

フィールドワーク 天理大学附属天理参考館

モンゴル帝国での家系の重要性と現代へ至るまでの歴史を幅広く学ぶことが出来た

① 本家系図伝来の歴史的背景

- 本家系図は1905年頃に作成
- どのように日本（天理大学）に持ち込まれたのか**不明**
- 恐らく戦前（1945年より前）の可能性
- モンゴルから避難させる目的か（？）

③ ソ連統制下での家系図の位置付け

- モンゴルが1924年に独立後、ソ連の共産主義に支配された時代にチンギス・ハンの子孫は粛清、家系を表す資料は破棄或いはどこかに持ち出し、避難された可能性あり
- ソ連統制下で**戸籍制度廃止**、また姓がなくなり家系が遡れなくなる

② モンゴル帝国での家系の重要性

モンゴルの遊牧民社会においては「チンギス統原理」という思想があり、チンギス・ハンの**男系男子のみ**が正統な支配者となる権利と考えられることが家系図の作り方にも影響

④ 本家系図の希少性

- 類似の家系図はモンゴルにも保管
- 直径530cm、12世代までの記載で本展示品より少し小さく朱印がない

6. 参考文献 【書籍：計35件】

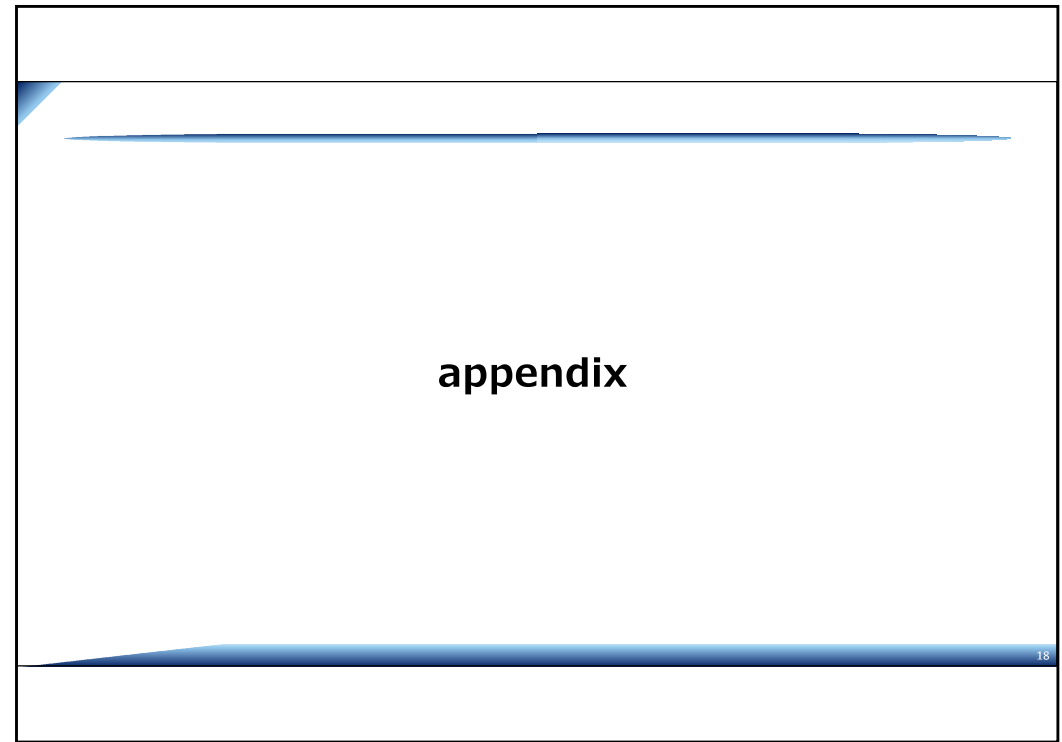
著者	書名	出版社
1 荒川正樹 他	建造される世界 14~19世紀 (岩波講座世界歴史11)	岩波書店
2 中島嘉幸	成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	吉川弘文館
3 高松卓吉	アジアのなかの琉球王国	吉川弘文館
4 藤原春樹	成吉思汗の歴史	朝野書林
5 上田謙次	成吉思汗の歴史 「成吉思汗」の歴史	朝野書林
6 藤原春樹・高松卓吉・中島嘉幸・吉成謙輔	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
7 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
8 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
9 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
10 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
11 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
12 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
13 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
14 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
15 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
16 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
17 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
18 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
19 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
20 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
21 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
22 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
23 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
24 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
25 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
26 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
27 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
28 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
29 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
30 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
31 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
32 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
33 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
34 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林
35 藤原春樹	成吉思汗の歴史 成吉思汗の南進 1205年「万国津梁」の200年	朝野書林

7. 年間スケジュール 春学期

回	日付	議題	発表者	文献調査・フィールドワーク	備考	議事録担当
1	4月19日	・自己紹介 ・今年度テーマ方向性			・春学期スケジュール確定	
2	4月26日	・問題意識発表(1)	杉、阿津、菅沼、佐藤		・メンバー確定	
3	5月10日	・ゼミ長・副ゼミ長確定 ・問題意識発表(2)	中里		・連絡用Classroom作成(中里) ・共同作業用Google Drive設定(中里)	中里
4	5月17日	・問題意識発表(3)	菅沼、五十嵐		・研究計画発表準備開始(ゼミ長・副ゼミ長)	佐藤
5	5月24日	・問題意識発表(4)	中村、佐藤	6月1日フィールドワーク(第1回)確定(天理大学附属参考館)	・役割分担確定	菅沼
6	5月31日	・問題意識発表(5) ・テーマ家検討	中里、阿津			阿津
7	6月7日	・テーマ家検討 ・フィールドワーク(第1回)報告 ・発表資料骨子検討	ディスカッション、佐藤			杉
8	6月14日	・テーマ家確定 ・研究計画発表資料確定(最終調整) ・発表リハーサル	ディスカッション	・研究者インタビュー調整	・発表役割と予演日程確定	五十嵐
9	6月21日	・研究計画発表				
10	6月28日	・中間発表準備	ディスカッション			
11	7月5日	・中間発表準備				
12	7月12日	・中間発表準備				
13	7月19日	・中間発表準備		フィールドワーク(第2回)実施		
14	7月26日	・中間発表準備				
15	8月25日~26日	・各宿・中間発表				

7. 年間スケジュール 秋学期

回	日付	議題	発表者	文献調査・フィールドワーク	備考	議事録担当
1	9月20日	・自己紹介 ・春学期成果共有			・秋学期スケジュール確定 ・最終メンバー確定	
2	9月27日	・追加メンバー問題意識発表				
3	10月4日	・追加メンバー問題意識発表				
4	10月11日	・問題意識発表				
5	10月18日	・問題意識発表				
6	10月25日	・問題意識発表				
7	11月1日	・発表資料骨子検討				
8	11月8日	・発表資料骨子確定				
9	11月15日	・発表資料準備 ・論文準備				
10	11月22日	・発表資料準備 ・論文準備				
11	11月29日	・発表資料準備 ・論文準備				
12	12月6日	・発表資料準備(最終調整) ・論文準備(最終調整)			・発表役割と予演日程確定	
13	12月13日	・Active Learning発表会				
14	12月20日	・最終発表 ・年内論文提出				
15	1月10日	・最終調整				
16	1月17日	・最終調整				
17	1月24日	・論文最終提出16:00 ・懇話会17:00~				



問題意識 三浦 雄太

問題意識

- ・モンゴル相撲と日本相撲の文化的・歴史的な関係性について研究する。
- ・モンゴル相撲のユーラシア大陸への広がりを研究する



研究を通して明らかにしたいこと

- モンゴルの遊牧民族が生き抜くための「力・知恵・技術」の象徴としてブフ、競馬、弓術を競い合う。中でもブフはナーダム祭の主役とされ三競技の中でも最も注目される。

19

問題意識 藤川 竜輔

問題意識

1. ホーミーや馬頭琴などの楽器は、どのように遊牧民の自然観・生活・宗教観・精神文化と結びつきながら発展してきたのか？
2. 音楽文化は現代社会においてどのように再解釈されているか



研究を通して明らかにしたいこと

1. なぜ、伝統文化の歴史が途絶えてしまったのか
2. なぜ、衰退した国であったのに伝統楽器や歌唱法が受け継がれていて、現代でも受け入れられて人気が高いのか

20

問題意識 矢野 雅大

問題意識

モンゴル帝国繁栄の歴史において食の役割とは
モンゴル帝国の食事の中で文化に昇華した物の現代に与える影響



研究を通して明らかにしたいこと

- モンゴル帝国を支えた食文化の全体像
- 帝国を支えた食文化は今でも生きているのか、またどのように活かせるのか

21

問題意識 杉 由紀

問題意識

- モンゴル帝国の統治体制のルーツを探る
- モンゴル帝国を「帝国たらしめた」要因の一つに、ウイグルの制度や文字の導入、ウイグル人の登用がある。なぜウイグルの制度を導入したのか



研究を通して明らかにしたいこと

- なぜモンゴル帝国は、ウイグル人の制度・文字を導入したのか
- ウイグル帝国、ウイグル人の制度が優れていた理由はなにか
- ウイグルの制度は、ソグド人やソグド商人から取り入れ発展した。ソグド人の制度や慣習の特徴、優れていた点は何か

22

問題意識 阿達 敏洋

問題意識

- 1.モンゴル帝国において紙、印刷、書物は情報伝達、経済、文化政策においてどのような役割があり、後世にどんな影響を与えたのか
- 2.製紙技術をどうやって他国から取り入れ、印刷技術はどこから入り、言語はどうしたのか。



研究を通して明らかにしたいこと

- 1.行政制度を統合的に管理するために紙の実用化をどう進めていったのか
- 2.モンゴル帝国は他国（南宋、西夏からどうやって印刷技術を吸収したのか
- 3.印刷物ではどうやって漢文、ウイグル語等多言語印刷政策を進めたのか

23

問題意識 佐藤 力

問題意識

- 男系男子のみが正当な支配者とする「チンギス統原理」が生まれた背景は何か？
- モンゴルにおいて家系図は何故重要なのか？



研究を通して明らかにしたいこと

- 「チンギス統原理」は、どのようにして帝国支配の拡大に組み込まれていったのか？
- チンギス・ハンの家系の重要性、血統はどのように尊重され受け継がれて来たのか？
- 男系血統を守ることが、どのように帝国の繁栄に寄与したのか？
- 血統の純潔性を保つために、どのような工夫がされたのか？

24

問題意識 菅沼 孝陽

問題意識

- モンゴル帝国が実現した広域交易圏のうち、海洋交易には、**琉球**が大きな役割を果たしたのではないかと。
- 琉球を媒介したアジア・ユーラシア海上交易は、各国の文化・経済に現代にもつながる大きな影響を与えているのではないかと。

研究を通して明らかにしたいこと

- 「パックス・モンゴリカ」がもたらした14~16世紀のアジア・ユーラシア海上交易路の実態
- アジア・ユーラシア海上交易における琉球の果たした役割
- 琉球が媒介した海上交易で扱われた物品、文化の流通経路と意義
- 中国大陸の王朝交代と琉球の関係と現代に与えた影響

25

問題意識 中里 健吾

問題意識

1. モンゴル帝国は13世紀において、東は朝鮮半島から西は東ヨーロッパに至る広大な領域を支配し、比較的平和なパックス・モンゴリカと呼ばれる時代を築いた。
2. 現代社会は、通信手段、交通手段が高度に発達し、文化交流の弊害が少なくなっているにも関わらず、様々な分断、戦争が多く発生している。
3. 企業経営の観点からは、DE&Iの課題、国を跨るグループ経営上の課題などが多く存在している
4. モンゴル帝国から現代社会の課題を解決する示唆を得ることができないか。

研究を通して明らかにしたいこと

1. ヤサ（共通法）による秩序維持、一体性の確保 →多くの民族を抱えるモンゴル帝国で、どのようにして皆が納得するヤサを定め浸透させたのか
2. ヤム制度-高速通信による中央、地方連携 →どのようにして必要な情報を適時に各地に展開し、また吸い上げたのか それを支えた仕組みの背景を探る
3. 分権性、各地の自立性と反乱防止 →各ハーン国に一定の自立を持たせつつ、反乱を防止したのか。分散型ガバナンスと中央集権のバランスの取り方等を考察する。

26

問題意識 中村 淳

問題意識

1. モンゴル遊牧民の乳茶文化と中国茶文化の融合
2. モンゴル帝国とグローバル化の始まりとしての茶文化

研究を通して明らかにしたいこと

1. 敦煌やサマルカンドなどの都市で茶がどのように流通・消費されたか。
2. モンゴル帝国がもたらした「グローバル化」の中で茶文化が果たした役割。

27

問題意識 五十嵐 郁一

問題意識

- 現代のユーラシア地域に生きる人々は、ナショナリズムや宗教対立による分断と不安定に直面
- 一方、13世紀には「パックス・モンゴリカ」による安定・平和が実現されていた
- その背景には、モンゴル民族の「精神文化の力動（ダイナミズム）」があったのでは？
- 現代人が幸福に生きるうえで「精神的拠り所」のヒントを、そこに見出せるのではないかと

研究を通して明らかにしたいこと

1. モンゴル民族の精神文化（宗教観・世界観・倫理観）の構造分析
2. 多民族との精神的相互作用がもたらした平和のメカニズムの検証
3. 現代社会に通用する共生の精神原理としての応用可能性の提示

28